

## 常盤塾

日時：2014年5月10日（土）10：00～13：00

場所：新国際ビル MBF ハウス

文責：常盤塾幹事 若林吾朗

### （1）常盤先生のお話

～量から質への経営の転換～

・日本のモノづくりの”質”に対する評価は、かつてほど高くない（円安になっても思ったほど輸出が伸びていない）

理由①：企業が海外移転をし過ぎている（円安の意味が無い）

理由②：競争力の弱さ

理由③：企業の行動基準（シェアばかり求める）

⇒今までのシェア争いから、利益を確実に生み出す方向へと転換する。すると、“質”の議論になる。

☆モノに籠められた“こころ”、“こころ”の面からモノを捉える（座標軸の転換）

・今までの座標軸はコスト、技術 etc これからは“こころ”、ブランドへの転換

・小さい会社（＝質）の蓄積が大きな力になる ex. イタリア、ドイツの中堅企業

では、「量」を捨てるということなのか

→そういうことではない。質の観点も持たねばならない、ということ

・量の企業のあり方・・・変わっていくマーケットに対して、成長産業をしっかり見極めて先手を打つ。 ex. 情報、IT、ICT ソフトバンクの孫社長の慧眼（機を見るに敏、投資家的発想）

・ただ、「時流に乗るものは時流に流されて消えてゆく」という言葉もあり、注意が必要である。

☆質というものは、やってきた事業を深く掘り下げる事で生まれる

体格より体質、変化に機敏に対応する ex. スイスの時計（2,000～3,000円→10万円）

☆“心”か、“こころ”か

・宗教学者の山折哲雄氏によれば、日本人ほど“心”という言葉を使う人はいない ex. 心のこもった、心無い、心丈夫などなど

- ・ ひらがなの“ころ” → 喜怒哀楽、煩惱を表す
- ・ 漢字の“心” → 宗教的、芸術的、体育的（心技体）意味合い

・ 朝日新聞『ころ』(夏目漱石)が、100年ぶりに朝日新聞デジタルで連載される  
100年前は『心』だったが、復刻版では『ころ』、ひらがなになっている

☆ひらがなの“ころ”を、モノづくりに取り入れる → 日本の新しいモノづくり  
「ブランド」とは何か、ブランドの力とは何か ← “ころ” 的アプローチで考える  
輸出できるようなモノづくりを！

#### ● 片平

英語で“mind”これを日本人は「心」と思うが、これは「頭脳」

「心」は本当は“heart” だが、あまり欧米人は使わない。せいぜい passion  
だから、“ころの籠もったモノづくり”は、欧米人に伝えてもわからないだろう

#### ● 川手

ヨーロッパ人はわかるのではないか

#### ● 古城

W&Kの方がインタビューのために東京にやって来た。その方は広告などを出す前に、徹底的に社内の話を聞く

その中でわかった、その方が結論づけた HONDA の本質・・・それは”warm heart”である  
へたすると傷つける(=hurt) 国際的ダジャレ

#### ● 松永

ものづくりは、どの企業でも heart の領域が存在した。情報化の流れの中で、ソリューションと言い出してから情報を頭脳的に使うことになり、mind は control されるものに偏ってしまった

#### ● 常盤

ソリューションなんて最低！！

役員会に出たら、ソリューション部なんてものがあつた。最近出てきた。ついていけない。

ソリューションって溶液のことじゃ・・・。

何でもソリューションって言っちゃう

本質的には新しいコンセプトではない。そういう言葉に惑わされるのが今の日本のダメなところ。言葉=生き様だから。

#### ● 安梅

私の所属する脳科学の総合的な学会の名前は「brain, mind, and education」 mind なので、emotional な部分は入ってはいけない

健康長寿に関するモデルでコンボイ(convoy 護送集団)モデルがある。「みんなで一緒に支

え合いながら生きる、さまざまな質の多様な人間関係があるから元気に長生する、という根拠の明らかにされたモデル」←トヨタの護送船団方式が「質」という観点で一致している。

●常盤

機械を売って終わりじゃない。売ってからが始まり。

中堅企業にはそういうところが多い

もうけようとかじゃない話から切り込んで、去って行く。

●古川

B2Bにはそういうところが多い。良い会社は増えていると思う。

日本の会社に、世界から人がやってくる

●常盤

お札を作る会社・・・日本とドイツが優秀

質の集積である。花王は中堅企業じゃなきゃいけない。

大企業は量に傾いてしまう。

●古城

ジョンソン&ジョンソンはぶっちぎりでデカイ企業だけど、ものすごく成長している

→よく見れば、divisionをしまくっている(200くらい)。大企業は成長出来ないとわかっている。

●昌子

ものすごくdecentralizationしている。権限委譲している。そのため、headquarterは人が少ない。

●常盤

夢よもう一度、ではダメ。変化の時代、とは言いながらも、口だけ。

“こころ”の時代です。

朝から若干暗めの話で、ごめんなさい。

## (2) 来月の発表担当者の決定

川手さんに立候補していただき、決定致しました。

とここで、松永さんより差し入れが。ナチュラルに関するお話にからめてということで、イエメンとグアテマラのコーヒーを持ってきて頂きました。いやあ、やっぱりコーヒーの本物は違いますね。薫りと苦みの深さが、普段飲んでもるものより数段格上でした。とても美味しかったです。ありがとうございました。MBFハウスが良い香りに包まれたところで、次へ。

### (3) 私の主張「台湾レポート～易学の旅～」(担当：松山)

発表：資料参照

#### ●古城

易が生まれた背景は？

#### ●常盤

私の考え。

古代の聖人、賢人と呼ばれる人は、星や動物を見てきた。

人の生きざま、社会のあり方を、宇宙を観察することで、時間をかけてその本質を見抜いた。その本質こそが、「陰」と「陽」である。これは、互いに対になるものである、ということ。男女や、昼夜など。相対する2つの極が1つになって初めて存在する。対立的統一、矛盾の合一性といわれる。

自然は恩恵と恐怖のもと。畏敬と畏怖、両方を併せて生きていく。

未来はどうなるかわからないけれど、未来のことが少しでもわかれば、よりよく生きられる。未来のこと、これが占いや易のそもそもの世界である。そしてその未来のために、現在をどう生きるか、ということである。(現代の占いのような)当たりはずれの話ではない。古代の自然哲学である。自然にどう立ち向かうか、そしてどう生きるか。それが易である。

もともと、周の文王が、それまでの知識を1つにまとめたのが起こり。

孔子が、文王のものを読んで、これをどう生活に活かすか考えた。

64の卦は、8つの static な状態を組み合わせて(8×8)、世の中の動的な状態を示している。

ライプニッツはこれに感動し、陽と陰を0と1に置き換え、世の中は2進法で説明出来る、加減乗除は2進法で出来ると考え、コンピュータが誕生した。

原子模型を考案したボーアも、量子の世界が陰陽思想に通じると考えていた。

#### ●古川

全体を説明するシステムが、今を説明するシステムになるのか？出来るのか？

#### ●常盤

それはそれぞれ違うもの。私と古川先生の今の状態は違う。

これを科学的に説明するのはナンセンス。科学と対立するものの存在(=異科学)

#### ●丸山

科学的に考えれば、「心」など無い、ということになるわけですからね

●松山

食事を頂いたのですが、ボランティアの方が、地場の野菜を肉に見立ててくれた。菜食主義の人が多いので。

●常盤

「国」の意識・・・列強の侵略による

●臼井

自然から学ぶところなど、バリヒンドゥーとすごく似ていると感じた。

叔父が庭師で、茶の席などの庭を造っていた⇒「易学学べ!!!」とさんざん言われた

とにかく心を持って接しなさい!

日本には易学はどのくらい浸透しているのか?

●松山

江戸時代は浸透していた、幕府は朱子学を官学としていた。ただ日本は閉鎖的で、庶民に広まるのは明治以降

朱子学ブームになりすぎて、「日本ってカタいよね」と本居宣長が古事記への回帰。

易学が一番とかっていうことじゃない。信じる人は信じる、信じない人は信じない

●常盤

暦を作る人がいちばんえらい人、尊敬される人だった

●古城

学校では時間割作る人がいちばんえらい!

●昌子

時刻表作る人がえらい!

(4) 輪読『GROW 本当の企業理念について語ろう』第一部続き (担当: 松崎)

発表: 資料参照

●常盤

電子レンジが壊れて、新しいのを買ったら複雑すぎて・・・。前のに戻した。

●片平

(顧客に寄り添うことに関して) 古いマーケティングではある。

●常盤

顧客に寄り添うことと、顧客価値の創造、この2つが重要

どう寄り添うか、顧客の本当の意見なのかどうか見抜かなければならない

2つのつなげ方が肝要である

●古川

レシピについて。昔は本になったが、今はクックパッド  
今はお金払う人がいない、新聞社もつぶれてしまう  
いいものを作っても、お客さんはプレミアムを払わない

●松永

変わらぬものと変えていけるものの両方の選択があるとよい。コストのみの選択で、オール電化で家を建てた人は、電気代がとんでもないことになっている。

●安梅

でも、美味しいものは皆食べたいと思いますよね

●片平

美味しいものがわかんない奴が多い。

朝飯がウイダーinゼリーだとか、料理しない母親、美味しさを知らない

●松崎

共働きだからでしょうか。

●今田

ご飯だって作ってもらったら旨い。“こころ”だ。

●古川

タイでは屋台で朝飯を食べる

●常盤

屋タイだから！ 国際的ダジャレ

スイスの時計になぜ（普通の時計の）100倍も金を出すのか。

●古川

スイスの時計は、時間計るものとしては見ていない

●常盤

いやでも時計の機能が無くなったら、私は買わないですよ！

でも、キュレーターの役割、これはすごい

●大下

デパートで外商を長年やっている人によれば、他の商品は売れなくても、時計だけは売れる。なぜなら、換金出来るから。

●古川

それもストーリー。

●常盤

もっともらしいストーリーを作ること。

色んな個展をやっている一角のうちの一軒で、自分の絵を売ろうとしている人が「この絵は金を使っているのだから、絵がダメでも高く売れます。だから買って」と言われた

●片平

情けない・・・

最後に、臼井さんから共著の本『アグリベンチャー』が皆様に配布されました。